

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	がん患者における凍結精子の利用率及びその精子濃度回復に関する探索的研究
研究責任者	聖隷浜松病院 泌尿器科 脇 政順
研究実施体制	研究施設： 聖隷浜松病院
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2026 年 3 月 31 日
対象者	【対象患者】2005年10月から2024年12月の間に当院にて精子凍結を行った患者さん
研究の意義・目的	悪性腫瘍の治療は、生命予後の改善に大きく寄与する一方で、化学療法や放射線治療により精巣機能が障害され、男性の妊孕性に長期的な影響を及ぼすことが知られています。そのため、治療前に精子を凍結保存し、将来の生殖補助医療に用いることが推奨されています。(小児・AYA世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン2024年12月改訂 第2版) しかしながら、凍結精子が実際にどの程度利用されているか、また治療後に精子濃度がどの程度回復するかについては、一部の報告はあるものの施設間による要因が大きくその実態は明らかにされていません。(J. Mamm Ova Res vol.30(3), 101-108, 2013) 本研究では、当院における長期的な凍結精子利用の実態と、治療後の精子濃度回復の実態を明らかにし、生殖医療やがん生殖医療における臨床的基盤を提供することを目的としています。
研究の方法	【研究のデザイン】後向きコホート研究 【方法】対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行います。 【主要評価項目】 精子凍結時の精子濃度および、治療後の経時的な精子濃度の変化 【副次評価項目】 1.精子凍結の利用と胚盤胞達成率および妊娠率及び出産率 2.精巣腫瘍における精子凍結時の精子濃度及び治療後の精子濃度の変化 【変数】 身長、体重、年齢、主訴、既往歴、ホルモン値、癌腫、治療レジメン、治療レジメンによる妊孕性リスク分類、精子凍結時精液所見、治療後精液所見、凍結精子利用率、妊娠率、
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 泌尿器科 脇 政順 TEL:053-474-2222(代表) 泌尿器科外来 9:00～17:00 平日